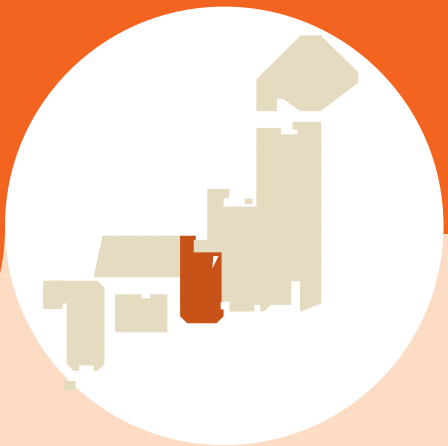
近畿



京都府	田村公伸さん	剣道	42
大阪府	小林　昇さん	テニス	43
	星野悦治さん	テニス	44
兵庫県	高橋直樹さん	弓道	45
	松平秀利さん	合気道	46
奈良県	平井英勇さん	水泳	47
和歌山県	金田好充・好美さん	ダンススポーツ	48
	永長美保さん	太極拳	49
大阪市	竹中利春さん	マラソン	50
	永柳恵子さん	マラソン	51

近畿
京都府

2019 NENRINPIC WAKAYAMA

剣　道　「京都府」（監督兼選手）

田村公伸（たむらきみのぶ）さん　72歳　●参加歴：５回目

亡父と２代続けて大将として参加。縁を感じた大会

亡父は第６回ねんりんピック京都大会に同じく剣道で大将として出場し（当時72歳）、第３位に入賞した。また、開始式において、選手宣誓の栄誉を担ったのを覚えている。今回で私は５回目の大会参加、京都府の監督兼大将として出場することになり、父と同じ72歳で大将を務めることに縁を感じた。

８月より11月初旬まで、府・市合同の強化稽古を実施した。９月には、近隣府県から12チームが剣道の聖地・武徳殿に集合、白熱した強化試合を展開し、本番に備えた。

11月８日に京都府選手団の結団式後、奈良県橿原市のホテルに移動。直ちに橿原神宮に参拝し、必勝と安全を祈願した。夜には懇親会が催され、それぞれのチームが決意表明を行った。

２日目の総合開会式には１万人の大選手団が集まり、地元和歌山県の皆さんによる歓迎の下、盛大に開催された。御臨席の彬子さまからいただいた、「ねんりんピックで輝く皆様が、ますます輝く未来を作っていかれることを祈ります」とのお言葉に、心を新たにした。アトラクションも素晴らしく、心から楽しんだ。

３日目、大会初日。白浜町立総合体育館に全国から70チームが集結した。開始式では井澗誠白浜町長による挨拶のあと、名古屋市の前島昭さんが92歳で最高齢者賞を受賞された。その立ち居振舞いは颯爽として若々しく、この大先輩に見習いたいと思った。

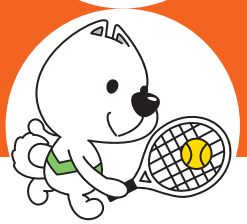
予選リーグ開始、我々は練習会場で準備運動などを行い、本番に備えた。初戦は佐賀県に１勝２敗、２戦目は静岡市に２勝２敗。取得本数２対３で勝利を収めた。成績は１勝１敗で、予選敗退となり、応援団の期待に沿えなかった。また、市チームの敗退も確定した。夕食は苦いビールと酒での反省会になり、自室での２次会も話題が尽きなかった。

４日目の決勝トーナメントは初戦を見学し、京都市チームとともにバスで円月島・白良浜などを観光。宿泊地である那智勝浦町のホテルに移動した。忘帰洞という天然の洞窟風呂で、太平洋から打ち寄せる波音と景色、そして温泉を満喫。その後、宴会となり、魚介料理とお酒を堪能した。２次会も剣道談議で盛り上がった。

５日目は午前中、レトロな定期観光バスに乗り、那智の滝・熊野那智大社・青岸渡寺などを観光して、帰洛した。

今大会で親しくなった方、お世話になったすべての皆様に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

総合開会式でチームの仲間と。（右から２人目）



テニス　「志紀ゆうゆうテニスグループ」（監督兼選手）

小林（こばやし）　昇（のぼる）さん　74歳　●参加歴：３回目

入場式で選手団旗手の大役も果たした、充実の４日間

我々は八尾市立志紀テニス場で、月火木の午前９時から11時までテニスを楽しんでいます。平均年齢が約70歳で約100人、88歳の男性も「若い人」に負けじとコートを走り回っています。

今回は大阪府代表に選ばれ、選手団140名とともにバスに分乗し、紀三井寺公園陸上競技場に到着しました。会場には全国から大勢が集まり、沖縄県を先頭に入場行進が始まりました。私は大阪府選手団の栄誉ある旗手を務め、いい思い出になりました。和歌山県選手団の人数に圧倒され、約１万人が色とりどりのユニフォームに身を包んだ様子は圧巻でした。

旗手の大役も無事に終え、テニス、卓球、ゲートボールの開始式が和歌山市内で行われました。歓迎の和太鼓は重奏で迫力満点でアンコールが何度も続きました。

その後、夕食時に、翌日からの試合に向けたミーティング（大酒宴）をし、「試合では普段の力の半分も出ない」「７割出れば御の字」「平常心で戦いましょう」などと盛り上がりました。

いよいよ試合開始です。最初の対抗戦はかなりの緊張状態で、残念ながら完敗。次の対抗戦は少し良くなりましたが、これまた完敗。最後の対抗戦はせめて１勝と意気込みましたが、またもや完敗。皆が意気消沈と思いきや、笑顔が絶えず、味方の「珍プレー」にも拍手喝采。スタンドにいる他のチームの応援者から「明るくていいですね」とおほめの言葉をいただきました。夕食時の反省会でも各々が反省しつつも初日に続き大宴会となりました。

私は監督としてこのままでは帰れないと思い、「明日、１勝した組には、ポケットマネーで食事会にご招待します」と“ニンジン作戦”を発表しました。翌日は予選リーグ４位のグループのトーナメントです。第１試合は一進一退で終盤タイブレークとなりましたが、もう一歩で惜敗。第２試合は女性組の頑張りで待望の１勝。第３試合はこれまた大接戦となりましたが、残念ながら惜敗しました。

結果は散々でしたが、皆は参加できたことに大満足しており、全員がうまく次の予定に切り替えることができました。

大会後は全員で白浜へ向かいました。千畳敷、三段壁洞窟を観光し、翌日はアドベンチャーワールドへ行き、「彩浜」と世の男性の憧れ、パパパンダの「永明」に会い、帰阪しました。

和歌山での４日間は私にとって、楽しく、有意義な人生の１ページでした。関係者の皆さん、チームの皆さん、本当にありがとうございました。

愛知県代表と試合前のコートで仲良く記念撮影。（後列左端）

近畿
大阪府

2019 NENRINPIC WAKAYAMA

テニス　「志紀ゆうゆうテニスグループ」（選手）

星野悦治（ほしの よしはる）さん　72歳　●参加歴：2回目

チームメンバーとの絆が強まった楽しい大会

「ねんりんピック」は、長崎大会に続いて２度目の出場です。長崎大会では何の心配もせず、歓迎アトラクションや式典などを楽しめましたが、今回は総合開会式の選手団紹介者に選ばれていました。不安でドキドキしていると、ついに大阪府選手団が行進してきました。全国からの約１万人の選手の前で、精一杯大きな声でお国自慢を伝えました。大役でしたが、今までにない緊張と感激とを体験できました。

総合開会式が終わり、和歌山市内で開催される競技の合同開始式にバスで移動しました。和太鼓の演奏で歓迎され､演奏が終わるたびに「アンコール」の声が上がりました。演奏者の皆さんも、何度も迫力ある演奏を続けていただき、割れんばかりの拍手で感動しました。

開始式が終わると、外はすっかり暗くなっていました。宿泊先に到着し、明日の試合に向けてメンバーで打ち合わせ、団結力を固めました。

２日目は昨夜のミーティングを踏まえて試合に挑みました。壮行会で先輩から「緊張でラケットが思うように振られへんで～」「ワンポイントを取るだけでも大変やで～」と聞きましたが、まさにその通りでした。結果は、愛知県に０対３、宮崎県に０対３、高知県に０対３で完敗でした。悔しい思いをしましたが、大変勉強になり、とても楽しいテニスができました。

３日目は予選４位グループのトーナメント戦です。前夜の反省会で「何も考えずにリラックスしてやったらええやん」「そうしようか」と意見がまとまりました。男性軍２組はともに負けましたが、女性軍は勝ち、ベスト８には進めませんでしたが、１勝できたことに大満足しました。

ねんりんピックに出場できたことに大変喜びを感じ、ウキウキしながら会場をあとにして、レンタカーで一路、白浜方面に向かいました。車中では観光モードでドライブを楽しみました。千畳敷、三段壁洞窟を観光し、１泊しました。この夜も、飲みながら、テニスや観光の印象などを話し合い、楽しく過ごすことができました。４日目、アドベンチャーワールドでは、ねんりんピックに参加されたと思われる方々を見かけました。

大会に参加して、このように楽しくテニスや観光ができたことは、大変有意義で、このメンバーとより強い絆ができたと思っています。

最後に、ねんりんピックに携わっていただいた皆様方に、御礼と感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

チームの皆と観覧席から試合を観戦。（左から２人目）

弓　道　「兵庫県」（監督兼選手）

高橋直樹（たかはしなおき）さん　67歳　●参加歴：２回目

田辺市のボランティアの温かさが忘れられない思い出に

私は「ねんりんピック紀の国わかやま2019」に兵庫県から弓道代表として参加しました。日頃は週2、3回、退職した会社の施設で弓道を練習しています。80数歳になるOB・OGから、入社間もない20歳過ぎの若者まで、老若男女が和気藹々と、ときには厳しく指導者から指摘を受けながら楽しく弓道の道を究め、県や会社の弓道大会などにも参加し、日頃の成果を発揮しています。

私は67歳で、体力に合った強さの弓を使い、弓を引く回数も調整しています。体力維持と人との交流を目的に趣味で始めて10年になり、深夜まで必死に働いた現役時代とは異なる価値観を見つけ、人生を豊かに楽しくするように心がけています。

そのような中、県予選を経てねんりんピックに参加し、スタッフ、ボランティアの方から温かくかつ細やかな接遇を受けて、楽しく過ごすことができました。

まさに「おもてなし」を実感することがありました。大会中のことです。お土産や衣服で一杯になった荷物を宅配便で送ろうと、段ボール箱を選手控えの体育館で探し、宿泊所にも問い合わせましたが、入手できない状況でした。体育館の案内所にいた男性に相談しましたが、「手近にあった段ボール箱は全部なくなりました」とのことで、仕方なくその場を去りました。ところが、間もなく、その方が兵庫県の私の席に突然現れました。案内所では所属も名前も告げなかったのに、私が着ていた兵庫県のユニホームと顔を覚えていて来てくれたのだと驚きました。

「体育館には段ボール箱がないので持って来ます」とのことで、明日にも手に入るだろうと、自分の名前と携帯番号を告げ、体育館をあとに宿に帰りました。すると「今から宿に持っていきます」と連絡が入り、間もなく「兵庫県からは6名いらしているので、6箱持って来ました」と、数は伝えていないのに人数分、それも新品の段ボール箱を持って来ていただきました。さらに「必要かと思い、ガムテープも持ってきました。どうぞ、差し上げます」と言われ、そこまでしていただき、驚きました。

田辺市のボランティアの方でした。驚くほどの手厚い対応に驚きと感謝しかありませんでした。決勝トーナメントには進めませんでしたが、このような素晴らしいことがあった「ねんりんピック」は一生記憶に残ると同時に、田辺市の方の温かい御恩を忘れることはできません。

会場となった体育館前でチームの皆と。（左端）

合気道　「合気道せいぶ館」（選手）

松平秀利（まつだいらひでとし）さん　61歳　● 参加歴：1回目

参加者の若々しさに感動。大いに刺激を受けた大会

まず、今回のねんりんピック参加にあたり、大会前から親切なご説明、結団式などご配慮いただき、当日の誘導などでもご尽力いただきました兵庫県のスタッフの方々、和歌山県の職員の方々、田辺市の職員の方々に心より御礼申し上げます。

私は「ねんりんピック」という言葉をおぼろげに知る程度でした（ついこの間まで、参加対象者ではなかったこともあります）。まさか、自分が今回の参加者になるとは思ってもいませんでした。

結団式より、さらに開会式で、参加される方たちの年齢の高さに思わず目を見張りました。私が参加した合気道でも、最高年齢の方はたしか87歳だったと記憶しております。そして、参加者は皆、元気で若々しい方たちでした。私は、年齢はまだまだ若いほうでしたので、これからもますます元気で合気道を続けていこうと決意を新たにした次第です。

合気道は、田辺市で演武という形式で行いました（ご存じの方もおられると思いますが、合気道には試合がありません）。もちろん、大勢の高齢者の方たちが演武されておられました。

高齢化の進行が著しい日本。その中にあって、いかに元気に生き生きと人生を送るかが問われると思います。ねんりんピックに参加するということは、1つの大きな生きがいなのではないかと考えます。何といっても「体を動かす」ことは、最も大事なことですから。そして、日本全国に高齢でも生き生きと人生を送られている方が多くおられ、その方たちが一堂に会することができるのは、この上なく素晴らしいことだと思いました。

「生涯現役、生涯スポーツ（私であれば、生涯合気道ですが）」を目指して、これからも合気道を続けていきます。今後もねんりんピックに多くの方が参加され、高齢者のスポーツがますます盛んになることを心よりお祈り申し上げます。

水　泳 平泳ぎ 25m・50m　「およげせんとくん」（責任者）

平井英勇（ひらいひでお）さん　62歳　● 参加歴：1回目

全員で泳法を確認。チーム一丸となって試合に挑む

私は子どもの頃から水泳が好きで、社会人になってからも、スイミングスクールで週２回程度のペースで、水泳好きなメンバーとともにスピード練習をしたり、マスターズ大会に出場したりしています。

今回、ねんりんピックに出場させていただくことになったのは、2018年富山大会で表彰台に上がったトップアスリートの方から勧めていただいたことがキッカケです。そのときは「自分など大丈夫かな？」と不安でしたが、予選会を無事通過して、本大会に参加させていただけることになりました。

出場が決まってからは、日に日にこの大会のスケールの大きさを感じるようになりました。開会式では、数千人の方々が参加された素晴らしい演出の数々に、我々選手一同、感動いたしました。さらに皇族の方やスポーツ庁長官というそうそうたる来賓の顔ぶれ、そして雲ひとつない秋晴れが、この開会式の演出を一層盛り上げてくれました。私にとっては、経験したことのない光景でした。

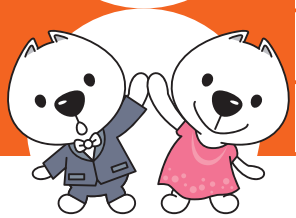
奈良県からも、数多くの種目に選手が送り込まれました。我々「およげせんとくん」水泳選手団は男性３名、女性２名、計５名で参加させていただきました。若造の私がリーダーを務めることになり、サブプール横のジャグジーで諸先輩たちに生意気にも「試合直前水泳教室」を実施して、泳法のチェックとコツの確認をし、チームで一丸となって試合に挑みました。

今回の大会で一番驚いたのは、定年になったばかりの選手が強いのは当然ですが、80歳以上の高齢の選手の方々がお元気なことです。皆さん、まったく年齢を感じさせず、ハツラツとされていました。そんな先輩方の姿に接し、私ももっと体力をつけ、技術を磨かなければいけないと、今後のトレーニングの目標が見つかりました。

最後に、今回のねんりんピックにご協力いただいた関係者の方々、また共に戦ったチームメンバーへ改めて感謝いたします。ありがとうございました。

試合後。チーム一丸となって健闘した。（左端）

メダルを胸にうれしさがこみ上げる。



ダンススポーツ　「和歌山県」（選手）

金田好充（かねだよしみつ）さん・好美（よしみ）さん　67歳・64歳　● 参加歴：1回目

情熱と笑顔で力いっぱい踊り、３個のメダルを獲得！

和歌山県ダンススポーツ連盟会長より、「ねんりんピックに出場しませんか」とお誘いをいただき、参加させていただくことになりました。「ねんりんピックって何？　オリンピックはわかるけれど。あっ、シニアの大会、60歳以上の大会だ」という感覚でした。私は67歳、妻は64歳と対象年齢は十分に満たしています。28年間、夫婦でダンスをしてきた集大成にしようと参加しました。

紀三井寺公園陸上競技場で行われた総合開会式では、新調した和歌山県のユニフォームを着ての行進です。孫と同じような年齢の子どもたちが旗を振り、声援しながら花道を作ってくれ、これからねんりんピックに参加するんだと気持ちが昂りました。胸を張り、和歌山県のＰＲキャラクター「きいちゃん」のぬいぐるみを高らかに上げ、行進しました。

ダンススポーツの会場は、マグロと温泉で有名な那智勝浦町にあります。前日、会場に到着すると、都道府県からの代表選手が大勢練習していました。大会には196組の選手が参加します。

皆さん、60歳以上とはいえ、熱心で若々しい方々でした。夜は那智勝浦町名産のマグロ尽くしの食事を堪能し、他県の選手と親睦を図り、楽しいひとときを過ごしました。

温泉も「ええ塩梅」で、次の日の活力となりました。ダンススポーツの開始式では広い会場がシニア選手で埋め尽くされ、圧倒されました。

私たちは決してうまくなく、自信もありませんが、情熱と笑顔で、観戦している方々も巻き込んで、ダンスの楽しさを届けたい一心で力いっぱい踊りました。すると、なんとルンバで優勝、チャチャチャで３位、タンゴで３位と３個のきいちゃんメダルをいただきました。

団体戦は、県勢一丸となり、応援に競技にと大健闘し、結果７位でした。皆、充実感でいっぱいでした。

今は28年のダンス生活を本当に楽しんでいます。競技会では他府県からの方々と話に花が咲いたり、ダンス仲間とステップ１つを論じ合い、県連盟主催のパーティーでダンス愛好者と交流したり、皆で一緒に練習したり、おまけに健康もいただいています。

今大会参加者の最高年齢は100歳です。人生100年といわれる時代になりました。ダンス音楽を聴き、リズムに乗って、体を動かす。いつまでも楽しく、あふれる情熱、はじける笑顔でダンスを続けたいと望んでいます。

会場を設営していただいた役員の皆様、お世話になり、ありがとうございました。

28年間のダンスの集大成がここに。

太極拳　「チーム陣」（監督兼選手）

永長美保（ながおさみほ）さん　60歳　●参加歴：1回目

仲間との青春ドラマのような練習。そして感動の優勝！

「あふれる情熱　はじける笑顔」をスローガンに、青空の下、私たちの地元和歌山県で開催されたねんりんピック和歌山大会。選手の皆さんが全国から集まり、幼稚園の小さなお子さんから小学生、大人まで約1万人がグラウンドいっぱいに広がって、開会式は圧巻のひとことでした。大きな大会に参加したことのない私は、頑張らなくてはと改めて気の引き締まる思いでした。

私たちの「チーム陣」はねんりんピック和歌山大会への出場を目指して2016年秋に結成されて、現在3年目です。はじめは土曜日の午後4時から1、2時間の練習でした。それぞれの経験年数も習っている先生も教室も違うため、「足を上げる、降ろす（一番大切なところです）」のタイミングを合わせるところからスタートし、日によってタイミングが合ったり合わなかったりが続きました。

次は、演武するときに流す曲を選ばなくてはいけませんでした。4分以内で、盛り上がりのある「地球に乾杯」に決まったのですが、3分57秒を超えると、タイムオーバーになります。衣装もコートに映える色を考えて白地にし、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の熊野のシンボル・ヤタガラスを紺色の別布で切り取り、手で縫いつけました。

演武の組み立ても少しずつ変更を加えながら、先生のご指導のもと、1つの目標に向かって、周りを思い、悪いところは話し合い、まるで昔よく見ていた青春ドラマのような時間を過ごしました。

交流大会当日は、臨時の客席ができて、それでも立ち見が出るほど観客の熱気にあふれ、いつも使っていた体育館とは別の場所のように感じました。

こうした中で多くの応援をいただき、優勝という、周りも私たち自身もびっくりする結果を出すことができました。

60歳を超えてなお、努力、チームワーク、感謝、などという言葉が身近なものになるとは思いませんでした。このような年でも青春できるのだと感じ、チームの仲間はかけがえのない存在となり、太極拳がより楽しくなりました。

最後に、大会開催に向けて、さまざまな準備をしてくださった、県・市・連盟スタッフの皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

先生の胸にかけた優勝メダル。（左から3人目）

マラソン 10km 「大阪市」（選手）

たけなかとしはる
竹中利春さん　73歳　●参加歴：５回目

５回目出場で選手団旗手を務め、さらなる精進を誓う

令和元年11月10日、午前9時30分、好天に恵まれた「くじらの町」和歌山県太地町でマラソン交流大会10キロの部の号砲が鳴り、アップダウンのある５キロを２周する難コースに向かって走り出しました。

ねんりんピックへの参加は今回で５回目を数え、2011年の熊本大会に始まり、高知大会、山口大会、秋田大会と隔年で走り抜けてきました。和歌山大会は令和初の大会でもあり、大阪市選手団の旗手も任されて気合十分でしたが、結果は50人中23位とまずまずでした。

私とねんりんピックの出会いは10年前、スポーツジムの友人に紹介されたことに始まります。区役所で募集パンフレットを入手し、申し込んで、長居陸上競技場での予選会に参加できました。当日、トレーニングウェアに身を包み、はじめて走る長居陸上競技場のトラックは、シューズに伝わるクッション感、カーブで体を傾ける際の遠心力など実に爽快で、軽快に走り抜けることができ、大阪市代表の座を獲得できました。はじめての熊本大会では、マラソン男子10キロの部に参加して49分でゴールイン。わずかの差で入賞を逃しました。それからは隔年参加の目標を掲げ、トレーニングに励み、目標を達成してきました。３回目の山口大会では萩城跡周辺を周回し、石畳の感触が格別でした。４回目の秋田大会は前半下り、後半上りのきついコースで、71歳という年齢もあってか、他の参加者に抜かれてばかりでした。５回目の今回は大阪市選手団の旗手をさせていただき、選手団を代表して先頭を歩き、得難い経験ができました。

ねんりんピックの魅力は、競技への参加だけではありません。現地に宿泊して、大会運営や競技運営を支えていただいている地元の人や関係者とふれ合い、非日常を体験できる大会です。他県の選手団の団長、若いプラカーダーの人たちとも気さくに会話することで、知らなかったことをいろいろと教えてもらい、とても参考になりました。

今回は大阪市選手団の旗手として行進する雄姿を娘婿が撮影してくれて、娘夫婦との絆を強く感じた大会でもありました。写真は友人に自慢して見せています。

ねんりんピックには80歳、90歳を超えて参加されている方も多く、まだまだ精進せねばと感じています。これからも「若いもんには負けへんでー」と気合を入れながら、週５日、スポーツジムで汗を流し、2021年の神奈川大会の参加を目指したいと思います。

開会式では大阪市選手団の旗手を務めた。（中央）

マラソン 3㎞ 「大阪市」（選手）

永柳恵子（ながやなぎけいこ）さん　80歳　● 参加歴：10回目

80歳、10回目の参加。高齢者賞もいただき感激

恵まれた天気の下、全国の高齢者がスポーツや文化活動を通じて交流する「第32回全国健康福祉祭和歌山大会（ねんりんピック紀の国わかやま2019）」の総合開会式が、11月9日、紀三井寺公園陸上競技場で行われました。

沖縄県を先頭に47都道府県、20政令指定都市の選手団が色とりどりのユニフォームで入場行進し、地元和歌山県の大選手団が最後に行進しました。大阪市選手団は27番目、総勢120名で、先頭は同じマラソン競技に参加する竹中さんが旗手を務められて堂々の入場行進となりました。

私は大阪市選手団紹介者として、「大阪市は歴史と芸能、文化にふれることができる魅力ある街です。選手団も交流大会でこの魅力をお届けします」と大会にかける意気込みやお国自慢をアピールし、メインスタンド前で帽子を振ることができました。

総合開会式には三笠宮家彬子さまが出席されており、国旗掲揚、大会旗の掲揚に続いて炬火の点灯があり、続いて、地元の小中高生によるアトラクションでは、四季折々の歌で夢を持ち続ける大切さを見ることができ、勇気、元気、活力が湧いてきました。

開会式終了後は、マラソン交流大会の開催地の太地町まで移動し、途中、串本町の橋杭岩の景色、景勝地からの夕日など、都会では味わうことができない素晴らしい景色を楽しむことができました。

翌日10日には、マラソン交流大会開始式が太地くじら浜公園で行われました。ここでは特別表彰として、最高齢者2名の方に続き、80歳の私が高齢者賞に選ばれ、表彰状、楯、花束まで頂戴し、大変感激しました。

人生100年時代の昨今、マラソン交流大会はスポーツマン、スポーツウーマンの集まりで、皆さん元気で速いことに驚きました。

私は過去数回、このマラソン交流大会に参加させていただいていますが、今大会では傾斜の緩い登り坂もきつく感じ、他の参加者についていけず、完走はできたもののゴール直後は座り込んでしまいました。

マラソン交流大会が無事に終わり、くじら浜公園で他の選手の皆さんと一緒に交流したり、また地元太地町の祭りの再現を見たり、また地元の食材を使った料理がふるまわれたりと、大いに堪能することができました。

大会を支えていただいた地元太地町の皆々様、大変お世話になりました。

高齢者賞を獲得した受賞式で。（左端）